

2016 年度湘南藤沢学会「研究助成金」成果報告書

「慶應義塾大学 SFC×口永良部島」島おこし協働プロジェクト
帰島支援と建築実験の共同作業による地域と学生の交流活動

1.活動日程・場所

日時：平成 28 年 8 月 3 日～8 月 17 日

場所：鹿児島県 口永良部島にて「帰島支援」

口永良部島郵便局前にて「竹筋コンクリート構造体の実験を含む建築提案」

口永良部島金岳小学校にて「夏祭りへの協力」を行った。

2.活動の目的

私たちは昨年の中島民避難から帰島を開始した島民の帰島支援を教育分野から長谷部葉子研究室が、ものづくりの分野から池田靖史研究室が取り組んでいくことが活動の目的である。その活動のメインとして口永良部島に豊富にある竹を使い竹筋コンクリートシェルの建築実験を行うことである。離島における建築提案を以前から続けてきた池田靖史研究室は、島で取れる材料を使用して、島に持ち込むものを少なくすることにより環境に配慮した新しい建築提案を行っていくことを目指している。また、この活動は島民と都会の学生が地産型のモノづくりを通じて交流活動を促進し、より良い島の未来の為に互いに協力し合う関係性を築くことを最大の目的としている。

3.活動の成果

帰島支援という場面においては、長谷部研究室が中心となり島の方々の方々の家の修繕などお手伝いを中心に行った。竹筋コンクリート構造体の実験を含む建築提案では、2週間という短い工期の中、基礎工事から始まり最後の工程であるモルタルを塗る作業まで期間内に終わることができた。敷地も口永良部島本村地区の中心地である郵便局前ということで非常に人通りも多く、作業を行いながら島民の方々と竹筋コンクリート構造体の将来的な使い道の話し合いなども行われた。今まで以上に島民の方々と距離が縮まる結果となった。そしてこのプロジェクト自体の目的や、なぜ慶應義塾大学がこの島に関わり、この先どういう活動を考えているかについても話し合うきっかけとなった。建築提案という部分においては、今まで島にはないような形状を池田靖史研究室が持っている技術を用いることで実際に建てることもでき、モルタルの厚さも 5 cm ほどと非常に薄くできた。また今回は実験ということも兼ねている為、竹筋の編み方や支えの作り方、海からくる潮風用のモルタルにしたほうが良いなど今後この竹筋コンクリート構造体を作る際への改善点も多く見つかри、次回以降への非常に良い実験結果を得られた。

夏祭りへの協力に関しては、長谷部葉子研究室、池田靖史研究室ともに行き、会場の設営から、慶應義塾大学として提灯・設営を行った。今まではどちらかという招待されているという感覚だったが、今回は夏祭り実行委員会にも参加し、主催者側という感覚を持ちながら夏祭りへ参加できた。提灯に関しても島の方々からの評判も良く、来年以降も継続的に夏祭り開催に向け協力してもらいたいという話もでた。また本村区長から、単純に島に大学生がいるだけでなく、そこで活動することで島の人々の意識を変えるきっかけの1つになるとお話をしていただき、このプロジェクトの今後が見えた。

4.活動の展望

今後の活動として、9月の12日から20日の期間で、口永良部島に再び渡航し、今回作った竹筋コンクリート構造体の耐荷重実験を行う予定である。その後半年から一年経過観察を行い、劣化の観察も行っていく予定である。また、ORFでも口永良部島プロジェクトとしてブースを設け、夏の活動報告、口永良部島の認知度アップを行っていく予定である。

↓竹筋コンクリート構造体、夏祭りの様子



5.謝辞

「慶應義塾大学 SFC×口永良部島」島おこし協働プロジェクトを行うにあたり、湘南藤沢学会様に厚く御礼申し上げます。